

三沢市淋代海岸採集のナイフ形石器

齋藤 岳¹⁾・工藤 司²⁾

Observation of Flake Point with Retouched Base Found at Sabishiro coast in Misawa City
SAITO Takashi and KUDO Tukasa

キーワード：旧石器時代、ナイフ形石器、淋代海岸、青森県内旧石器時代遺跡分布図作成、彫器

はじめに

三沢市の淋代平採集とされる2点のナイフ形石器は、『青森県史資料編 考古Ⅰ 旧石器 縄文草創期～中期』（青森県史編さん考古部会編 2017）で章の扉を飾る写真となった資料であるが、その詳細については不明であった。

そこで、工藤が三沢市への寄附者及び採取地点の情報を探し、石器の写真を撮影することとなった。齋藤は図化及び図版作成と最初の文章記載を行った。その後、両者で文章を補訂して本稿を完成した。

採集地は三沢市の「淋代海岸」であることが判明し、小縮尺の地図に落とせるレベルまで範囲を特定する事ができた。

そこで、三沢市に近い範囲である野辺地町以南の上北地方の旧石器時代及び縄文時代への移行期である神子柴・長者久保石器群の遺跡分布図を作成した。今後、青森県全域に拡大した図を作成するための足がかりとなると考える。

1 採集地点と寄附者

本資料は、最初に書籍で紹介された時に、「淋代平遺跡」となっていた（青森県埋蔵文化財調査センター編 1990）。しかし、この名称の遺跡は青森県遺跡台帳に存在しない（注1）。

「淋代平」という地名については、小川原湖東部から淋代海岸までの広域の地名として用いられることが多い。その他に、小川原湖の東に隣接して三沢市三沢字淋代平という小字名がある。

寄附に関する記録によると、採取地点は、三沢市淋代海岸となっている。そのことから、「淋代平」は広域の地名ととらえられ、そのなかでも海岸部である事が分かった。

淋代海岸の中でも、どの地点を示すのかは、解明できなかった。淋代海岸は、人によって指し示す範囲は異なると考えられるが、寄附者は三沢市職員であった関川勇太郎氏である。そのこともあり、三沢市域の海岸部として図1に示した。

2点が、同時に採取されたのか、採集地点の距離が離れていたのか等の採集状況は明らかにできなかった。

関川氏は、地域の文化や歴史に関心が深かった方であった。文化財保護に貢献したことから昭和49年度に第2回三沢市文化賞を受賞し、昭和60年度に第16回三沢市功労者として顕彰されている。淋代海岸で石器を採取し、保管をされた後に、三沢市へ寄附されたのも、氏の文化や歴史への関心の深さと見識によるものと考えたい（注2）。

2 石器の観察

図1に2点のナイフ形石器の写真を、図2に図を掲載する。いずれも珪質頁岩製であり1は光沢のある良質な石材である。

1は、長さ5.7cm、幅2.9cm、厚さ1.0cm、重量8.75gの二側縁加工のナイフ形石器である。

左側面には、槌状剥離のような剥離痕が長く残る。最終的に彫器となった可能性も残るが、バルブの形成は明確ではない。御堂島正(1991)が紹介した刺突具の先端部に生じるダメージ（衝撃剥離）のうちの「彫器状剥離」の可能性がある。

2は、基部加工のナイフ形石器である。長さは6.2cmで、幅1.65cm、厚さ0.6cm、重量は3.72gである。

3 三沢市周辺の旧石器時代と神子柴・長者久保石器群の遺跡

三沢市周辺の旧石器時代及び神子柴・長者久保石器群の遺跡について、今回の情報を加えると図3のようになる。下北半島の基部に位置する野辺地町では、採集資料が図化されてきた（瀬川 1996）。

また、向田(33)遺跡からは二側縁加工で基部を作り出し、先端が尖らない台形様のナイフ形石器が出土している。発掘調査報告書で遺構外出土の「不定形石器」として報告され（野辺地町教育委員会 2001）、後に「台形様石器」として紹介された（野辺地町文化財保護審議会ほか 2012）。

東北町東道ノ上(3)遺跡では、細石刃核と削片の接合資料が出土している（青森県教育委員会 2018）。三沢市内の遺跡では五川目(6)遺跡（青森県教育委員会 2011）の細石刃石器群が、細石刃核の接合資料を含み良好な資料として知られている。

神子柴・長者久保石器群の遺跡では六ヶ所村幸畑(7)遺跡、東北町赤平(1)遺跡で発掘調査されたほか、長者久保遺跡では、

1) 青森県立郷土館 副課長・副参事（〒030-0802 青森市本町二丁目8-14）2) 三沢市教育委員会（〒033-8666 三沢市桜町1-1-38）

現在も調査が進行中である（根岸ほか 2024）。

おわりに

本稿では、淋代海岸採集の2点のナイフ形石器の図・写真を掲載し、出土地点を絞り込んだ。これにより、旧石器時代の青森県内の遺跡分布図上に記載できるようになった。2点ともに、詳細な時期は不明である。青森県内での旧石器時代の資料が増加、蓄積し、石器群の編年が完成すれば、編年の中に位置づける事が可能と考える(注3)。

(注1) 成田滋彦(1984)は小川原湖東岸の公園内の上水道工事の際に出土した資料を図化・紹介した。小川原湖自然の家が保管していた資料である。資料紹介するにあたって「遺跡名は、小字名をとって淋代平遺跡と仮称」した。そのため「淋代平遺跡」という表記で紹介された資料は存在する。紹介されたのは、十腰内Ⅰ式よりも古い段階の縄文時代後期初頭から後期前葉の土器群である。磨石等の石器もあったと記載されているが、旧石器時代の石器として記載されていない。

(注2) 関川氏は、昭和8年3月3日に発生した昭和三陸津波の際に、三沢村役場職員として村役場に宿直していた。その時の手記が三沢市(1983)に採録されている。津波の急報を受け、各方面に連絡をとり、半鐘を乱打した後、被災地区に向かう。婦人会に連絡を取り、握り飯の炊き出しを行い、被災者に分配したという。「50年後の今日、静かなる太平洋を眺めるとき、鮮明に当時の惨状は私の脳裏に甦ってくる。それは私にとって一生忘れられないことのできない出来事であった。」と72歳の時に氏は記している。氏は三川目・四川目地区を担当して被害状況を現地踏査した。その地区をはじめとして、氏は生涯にわたり三沢市域の海岸を、何度となく訪れたものと想像する。

なお昭和三陸津波は青森県立図書館(2011)の館報で三沢市四川目の記念碑の碑文や参考文献等が記載されている。

(注3) 図2-1は秋田県虫内Ⅰ遺跡のナイフ形石器に形状と加工状況が類似する。図2-1に図示したナイフ形石器とともに、類似もしくは関連する資料をさらに調べていきたい。

引用・参考文献

- 青森県史編さん考古部会編 2017「そのほかの遺跡」「青森県史資料編 考古Ⅰ 旧石器 縄文草創期～中期」40頁
- 青森県埋蔵文化財調査センター編 1990『図説 ふるさと青森の歴史 総括編 大地から甦った祖先の足跡』17頁
- 化財調査報告書第449集
- 青森県教育委員会 1993『家ノ前遺跡・幸畑(7)遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第148集
- 青森県教育委員会 2008『坪毛沢(1)遺跡Ⅱ・柴山(1)遺跡Ⅱ・大坊頭遺跡・赤平(1)遺跡・赤平(2)遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第449集
- 青森県教育委員会 2011『五川目(6)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第502集
- 青森県教育委員会 2018『東道ノ上(3)遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第589集
- 青森県立郷土館 2000『東北町長者久保遺跡・木造町丸山遺跡』青森県立郷土館報告第44集 考古-12
- 青森県立図書館 2011『青森県立図書館だより 平成23年10月』青森県立図書館報第11号
- 秋田県教育委員会 1998『虫内Ⅰ遺跡 図版・写真編』秋田県文化財調査報告書第274集 図版436
- 國學院大學考古学研究室 2016『青森県東北町赤平(1)遺跡』國學院大學文学部考古学実習報告 第51号
- 野辺地町教育委員会 2001『向田(33)遺跡』野辺地町文化財調査報告書第8集 87頁第42図
- 野辺地町文化財保護審議会・野辺地町歴史民俗資料館編 2012『あるくみるなっとく野辺地の自然と文化』70頁
- 三沢市 1983『地震海鳴りほら津波 三陸津波50周年記念誌』
- 川口潤 2010「青森県」『日本列島の旧石器時代遺跡-日本旧石器(先土器・岩宿)時代遺跡のデータベース-』日本旧石器学会
- 瀬川滋 1996「考古」『野辺地町史 通説編第一巻』66頁 野辺地町
- 成田滋彦 1984「三沢市淋代平遺跡の遺物について」『青森県考古学』第1号 41—50頁
- 根岸 洋・夏木大吾・尾寄大真・大森貴之・米田 譲・石村大輔・古屋敷則雄・小田川哲彦 2024「青森県長者久保遺跡の既往調査および2023年度試掘調査の成果概要」『第23回北アジア調査研究報告会_発表要旨』 26-29頁 北アジア調査研究報告会実行委員会
- 福田友之 2000「青森県の縄文時代草創期関連の遺跡」『東北町長者久保遺跡・木造町丸山遺跡』青森県立郷土館報告第44集 考古-12 25-29頁 青森県立郷土館
- 御堂島正 1991「石鏃と有舌尖頭器の衝撃剥離」『古代』第92号 79—97頁 早稲田大学考古学会
- 山内清男・佐藤達夫 1967「下北の無土器文化—青森県上北郡東北町長者久保遺跡発掘報告」『下北—自然・文化・社会』九学会連合下北調査委員会編 98-109頁 平凡社



淋代平と淋代海岸の位置

青森県遺跡地図(青森県庁ホームページ)の「甲地」・「六川目」・「三沢」・「浜三沢」図幅を改変



図1 ナイフ形石器と採集地点

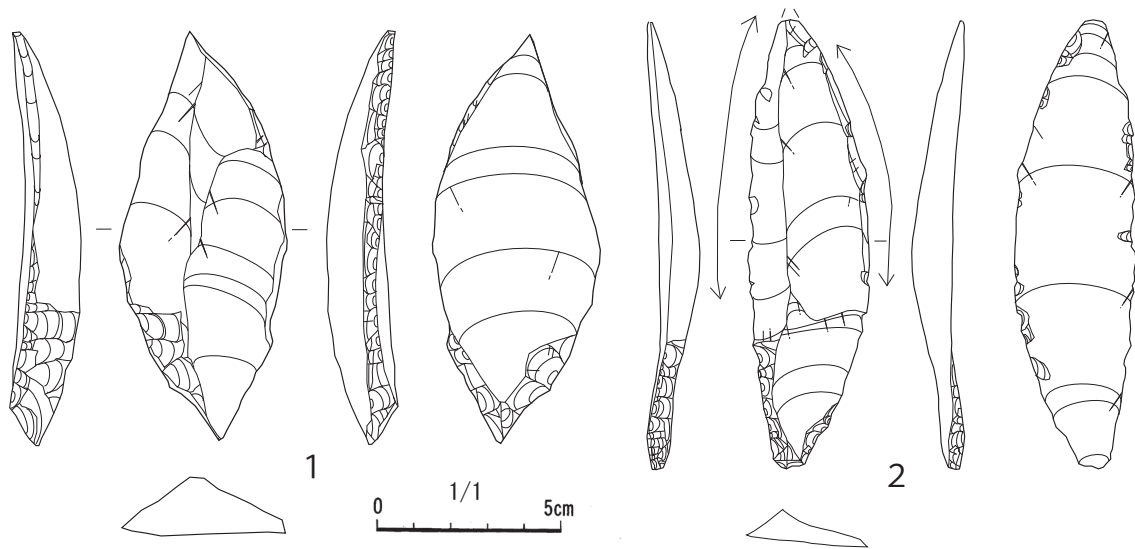


図2 淋代海岸採集のナイフ形石器

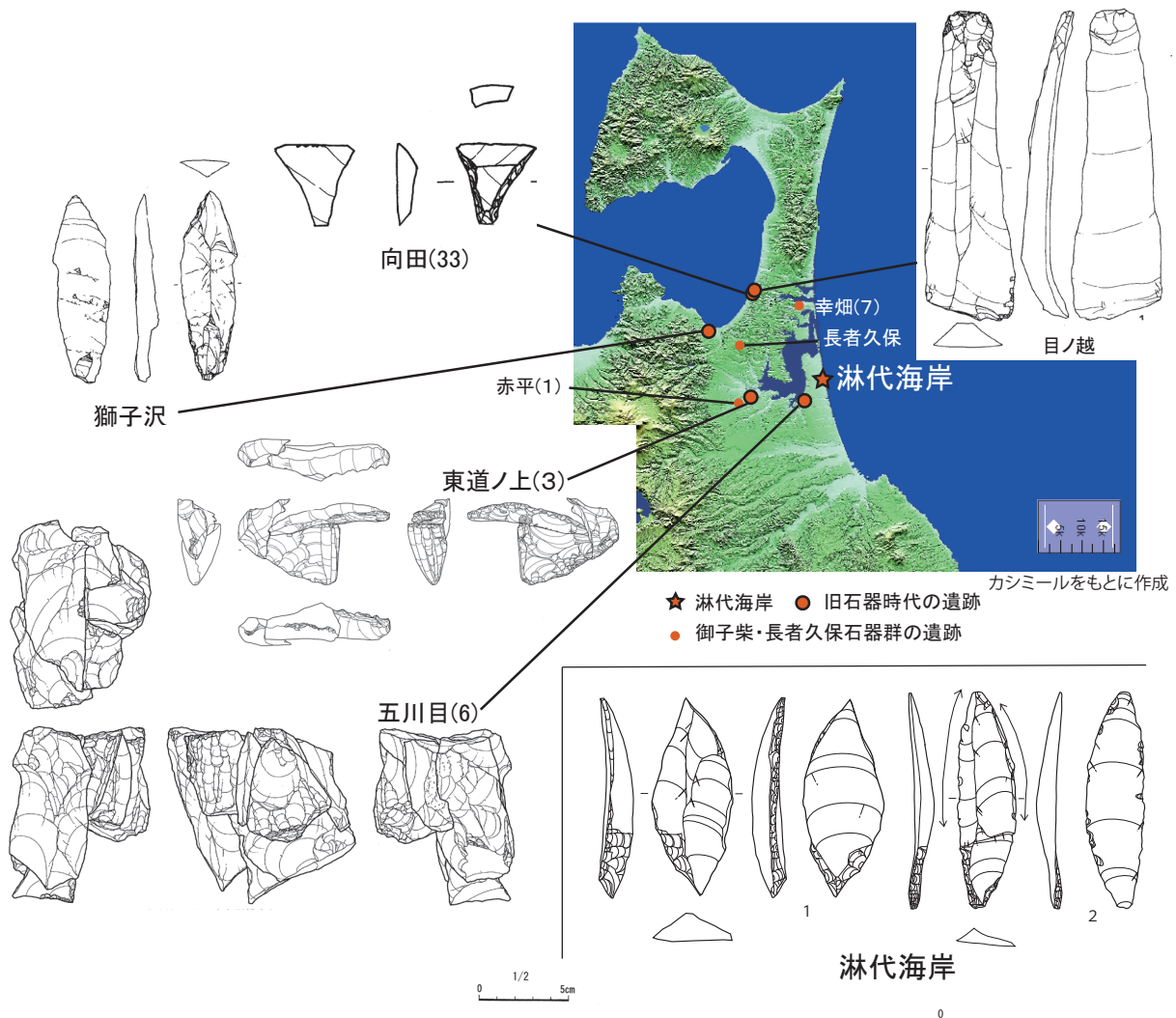


図3 三沢市周辺の旧石器時代と神子柴・長者久保石器群の遺跡分布図

(付記)

本稿を脱稿後、工藤は三沢市の収蔵庫で市所蔵資料を整理している際に、彫器を1点発見した。出土地等は不明である。齋藤が図化と写真撮影を行い、あわせて報告する。

長さは9.2cm、幅、3.3cm、厚さ1.2cm、重さ19.4gで、珪質頁岩製の石刃素材である。正面右下からは彫刀面が形成されている。上部は正面・裏面ともに彫刀面はない。正面両側縁に微細な剥離痕が観察できる。帰属時期としては旧石器時代の可能性が高いが、縄文時代草創期の古い段階の可能性もある。

本彫器の報告にあたり、川口潤氏と山地雄大氏から御協力と御教示を賜りました。

感謝申し上げます。

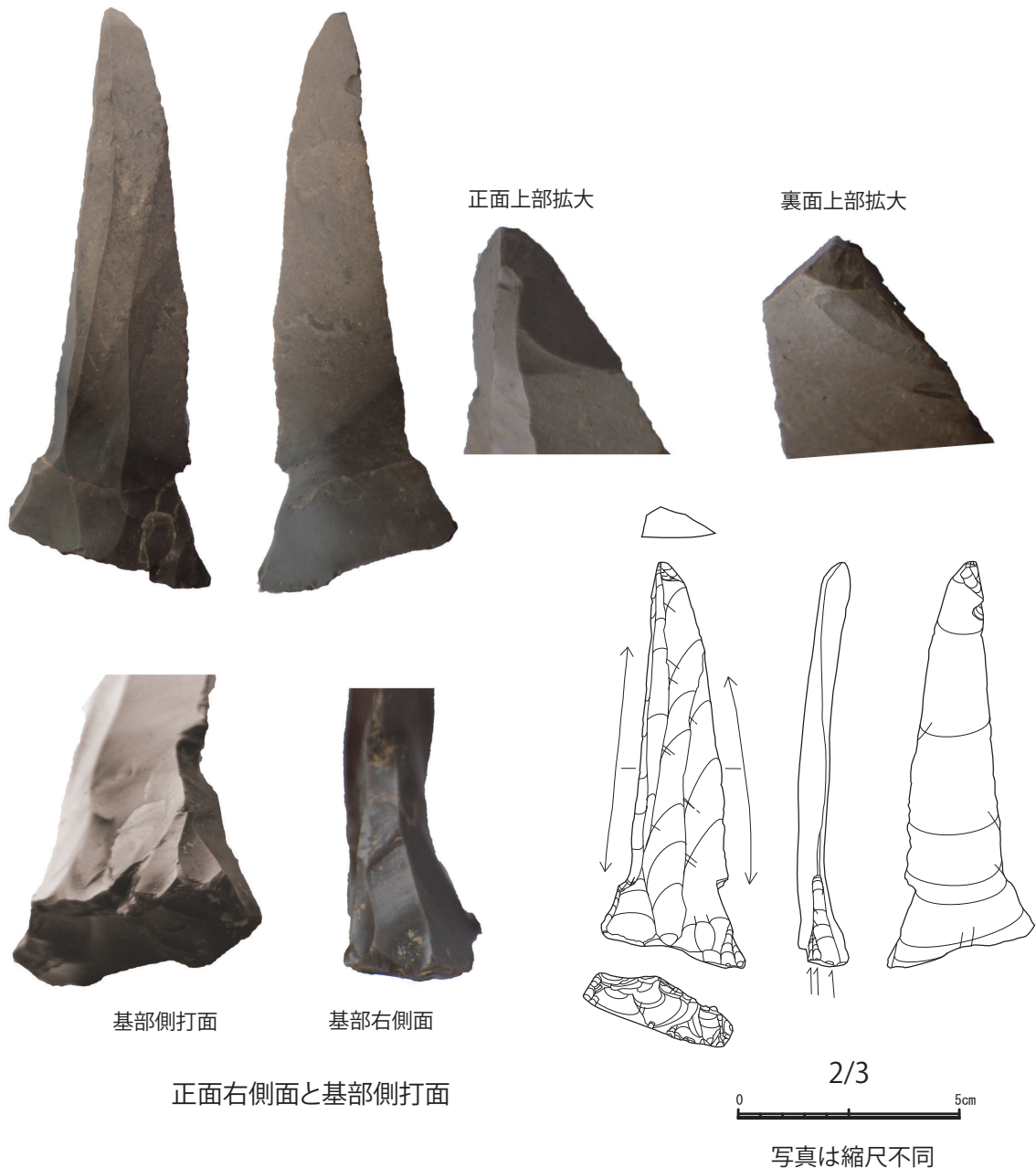


図4 三沢市所蔵の彫器

青森県立郷土館研究紀要 第49号(令和7年3月) 正誤表

頁	行・図番号	誤	正
52	19行目	(注3) 図2－ <u>1</u> は秋田県虫内I遺跡	(注3) 図2－ 2 は秋田県虫内I遺跡